

### 3 梵鐘 1口 [有形文化財（工芸品）]

〔所在地〕 五條市西吉野町賀名生5 賀名生の里歴史民俗資料館

〔所有者〕 個人

〔法量〕 総高 85.0 cm

〔時代〕 南北朝時代・康永元年（1342）

〔概要〕

後醍醐天皇を迎えて以来の南朝代々の皇居跡とされる、旧西吉野村賀名生の堀家に伝来した梵鐘。本鐘は、撞座の高さや竜頭の長軸線上にある位置など、鎌倉時代以降の和鐘の持つ形式的特徴を具えている。池の間の一区には陽鑄であらわされた銘文があり、その文字は左から右へ逆に読む珍しいものながら、もとは河内国の高福寺の鐘で、康永元年（1342）8月に鑄造されたとする由緒が記されている。

河内から賀名生の地へ伝わった経緯は判然としないが、享保21年（1736）の『大和志』は楠氏が献じたものと伝え、19世紀初頭の『集古十種』では、銘文の拓影が収録され、楠木正行（小楠公）が後村上天皇に献上したという伝承が記されている。このように、南朝ゆかりの当地の歴史を物語る遺品として早くから関心を集めてきたものであり、南北朝時代の梵鐘の貴重な基準作であることと合わせて、その価値は高い。

